

## 令和5年度 学校保健委員会（議事録）

日時 令和6年2月6日（火）13:30～14:30

場所 会議室

記録 熊谷麻衣子

議事録

### （1）開会

### （2）委員長挨拶（校長：三森健）

### （3）報告及び協議（議長：伊藤治子副校長）

○質疑応答、意見

・スクールカウンセラーの職業、利用者はどのくらいか？（内科医）

→県から派遣されているスクールカウンセラーで県内の各学校に勤務している。本校には月1回程度、年12回来校する。利用者は1回に3、4名程度。保護者も利用できる。（養護教諭）

・感染症対策として手洗い、換気ももちろん重要だが、「睡眠に関する調査」を見て睡眠時間が短いと感じた。睡眠は身体の抵抗力をつけるために大切なことなので、調査を活かした取り組みをしたらいいのではないか。（金ケ崎町 保健師）

・治療勧告書の提出率がよくないのは、金ケ崎中も同じ。金ケ崎町ではH15からフッ素洗口を実施しているので、むし歯は少ない。治療が進まないのは、親の休みがとれずに病院へ連れていけないという実態もあるようだ。親の働き方が子どもに影響を及ぼしていると感じる。（金ケ崎町 保健師）

### （4）指導・助言

【学校医（内科）加藤善信先生】

・命に関わることなので、エピペンは躊躇なく使用してほしい。AEDを使用した心肺蘇生も躊躇なくできるように、エピペンやAEDの場所の把握等全校に徹底してほしい。

【学校歯科医 鈴木和彦先生】

・う歯のあるなしのデータはあまり関係ないと思っている。大事なのは、治療が終了していること。また、むし歯がなくても定期的に歯科医に雇っていることが大事である。保護者が連れて行かない状況もあるが、高校生は一人で歯科医院へ行けるはず。また、岩手県で医療費補助があり、歯科の治療もかからないはずなので、保健便りで啓蒙して治療勧告書の回収率を上げることができるのではないか。

・新入生へは入学する前に受診するように促しているということで、続けて欲しい。入学すると、病院へ行く時間がとれないことが予想される。

【金ケ崎町子ども支援課 菊地淑子氏】

・子どものむし歯については、親の口腔環境が関係している。むし歯は減っていても、歯周病が多くなっている。

・スマホやSNSに関しては、目の影響が心配される。0歳児からスマホを見ている。今の高校生が親になっていくので、自分の健康を大切にしていってほしい。

【母親委員長】

・保育園の時、睡眠を大事にされる園長先生の指示により20時には就寝するよう心がけていた。高校生になり、スマートフォンを使用するようになり、部屋に入ってしまうと、何をしているのかわからないのが実態である。早寝、早起き、朝ごはんは大切であると改めて感じている。

### （5）閉会